

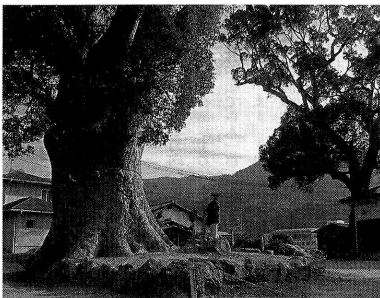
二十九、町指定天然記念物の

樹木たち③

天神森の大樟おおくす(一号木・二号木)

金出公民館敷地内には、二本の大樟があります。元は天神様が祀られていたそうです。大小二本のクスノキを夫婦にたとえて、地元では夫婦樟めおとすと親しまれています。クスノキ科の常緑大高木で、我が国の常緑広葉樹中、最高に長生きし最大に成長する木で、樹齢千年のものも少なくありません。福岡県内では太宰府天満宮や宇美八幡宮の巨木群が国指定の天然記念物になっているほか、本町内尾仲の老松神社境内にも二本の町指定の大木があり、昨年は内部の腐朽部分が火災で焼けたため樹木医による治療が行われたばかりです。葉は艶やかで、照葉樹の種類に入ります。秋に黒い果実が沢山実り、種々の鳥が啄つひみに来ますが、一号木の太枝には巣を作っている鳥もいて、鳴き

声こゑが賑やかです。この木が有名なのは、樹液から防虫剤の樟腦しょうのうを作ることでしょう。戦前の日本の輸出品目の三位までを占めたこともありましたが、化学合成のナフタリンが開発されたことにより一時は廃れてしまいました。しかしながら絹織物などの高級品にはやはり植物より作ったものが最良とされ、近年見直され始めました。葉を揉むと清々しい樟腦の香りがします。



左 樹齢五百余年の一号木
右 樹齢三百年余の二号木